インタビュー
特集／防災行政

自助の精神を基本に
国民の生命を
自然災害から守る

内閣府政策統括官
（防災担当）
高橋 健文

インタビュー
丸川 珠代

阪神・淡路大震災から約10年半がたちました。その後も有珠山や三宅島の噴火災害、東海豪雨災害、鳥取県西部地震、芸予地震など、我が国では自然災害が後を絶ちません。また最近、「東海地震の発生近し！」とか「富士山大爆発！？」など、とても気がかりな雑誌記事をよく目にします。

高橋健文内閣府政策統括官に、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた防災対策や三宅島の現状、東海地震対策など、我が国の防災行政について伺いました。

「がんばるや神戸」の精神を
いつも胸に
丸川
防災のご担当ですよ。好きなようにお休みもとれないので仕事ですね。高橋
はい。ポケットペルと携帯電話をいつも持ち歩いています。何かあれば十分以内に首相官邸に緊急参集しなければなりません。内閣府や家にいるときはいっぱいですが、休みの日に普段着で街中を散歩する
私が好きなものですから。そのときに三十分というのはちょっときついので、散歩するのも気が重いですね（笑）。

高橋
丸川、大都市の防災を考えるときに、実際には自分でも歩いて見ていないと、びんと来ないのではないか。防災もそうです。まちの呼吸という高橋
防災もそうです。まちの呼吸というの、車に乗っていては分からないですね。
丸川さん • 最近の政府の緊急対応については、非難がなくなっているように思います。

丸川さんは神戸で育ちました。東京に住むよう、べき坂のない生活になると思ったが、大奥はどこだろうというフラットでした。丸川は神戸で育ちました。東京に住むよう、べき坂のない生活になると思ったが、大奥はどこだろうというフラットでした。

政策統括官は、阪神・淡路大震災を支援するため、平成十年からです。復興対策本部にいらしまっていました。政策統括官は、阪神・淡路大震災を支援するため、平成十年からです。復興対策本部にいらしまっていました。

高橋は神戸市立の元行政を担う役に立っており、瓦礫の処理や仮設住宅の再建といった大変な作業がありました。兵庫県、神戸市等の元行政を担う役に立っており、瓦礫の処理や仮設住宅の再建といった大変な作業がありました。丸川は阪神・淡路大震災は、それまで日本で起こった地震と比べて、より大きな影響を及ぼしたと感じています。丸川は阪神・淡路大震災は、それまで日本で起こった地震と比べて、より大きな影響を及ぼしたと感じています。

高橋は阪神・淡路大震災は、それまで日本で起こった地震と比べて、より大きな影響を及ぼしたと感じています。丸川は阪神・淡路大震災は、それまで日本で起こった地震と比べて、より大きな影響を及ぼしたと感じています。丸川は阪神・淡路大震災は、それまで日本で起こった地震と比べて、より大きな影響を及ぼしたと感じています。丸川は阪神・淡路大震災は、それまで日本で起こった地震と比べて、より大きな影響を及ぼしたと感じています。

地震は予測するシステムが完成されたが、被害を予測するシステムが完成されたが、被害を予測するシステムが完成されたが、被害を予測するシステムが完成されたが、被害を予測するシステムが完成された。
噴煙を上げる有珠山

丸川

私はその日の朝、報道へ行って待機

したのです。神戸が一番高い被害を受けた

という事は分からなかったのですが、実

空からの映像で、あれリューキが揺れて

いる何々通りで、あ、菅原通りが揺れて

ていても、被害は全然として、被害を受け

なかったそうです。今、その反省を生か

高橋

地震が発生したとき、被害の規模を

推計するシステムがあります。どこかで大

きな地震が起きた場合、その地域でどれ大

な地震が起きるのかを調べています。

丸川

鳥取地震のときは、そのシステムで

かなり大きな地震だという予報が出、結

果的に被害は少なくて無事でした。ことか

たとえ、気象の予報が出たとき、被害は

なかったと detections であります。箇所

によりますので、災害の規模を推計する

システムは、阪神・淡路大震

を基礎として組み立てたので、地盤

が比較的やわらかいところと固定したこと。

また、神戸のように住宅が密集していると

震源上に、建物が揺れることをと

とすると、被害は少ないということです。

丸川

現在のシステムは、阪神・淡路大震

災害のときは、大きく構え、小さくおさま

れば、致命的なミスにはならずに済むわけ

です。今後は地盤の問題とが地域の特性

が重要です。
特集
防災行政

生活再建支援制度の創設
丸川被災された方をどうやってサポートしていくかという点も、阪神・淡路大震災で高橋決した施設の復旧と同時に、被災者の生活支援が大切で、これは従来も基本的に行ってきたが、災害対策においては、被災を受けて復旧の際には、高橋法的に現物支給という形をとっている。

生活再建支援法という法律の詳細を抜粋すると、何かと住居を構えるときには、洗濯物や耐久消費財などの購入のための金として、最大百万円を支給する制度が設けられました。

三宅島げんき農場をつくり、畑作業を
丸川・三宅島の噴火では、自分たちの生活の場を失い、仕事もできなくなり、長期間避難生活を送らなければならないなりました。避難しなければ、たくさんの人が命を落とすことになったけれども、一方で経済的なダメージを受けることになった。

防災のためには、地域の良さを引き出し、地域の資源を活用することが重要です。この地域の自然環境を活かし、地域の文化を生かすことが重要です。
防災担当者、現
が、防災担当者、は、毅然
として策を策むという
ことを、重点的に考えてい
たたい、思います。高橋
ですか。その、防
災といえば、国民
の生命、財産を守る
ということですが、いち
り基本は、生命を守る
と、思っている。三宅
島については、今、三
宅島の、全島民が、島を
離れ、避難生活を
送っています。でも、あれば、噴火で敏
りな、陸上から、科学的な観測を行
う。それにより、噴火の、特徴が、明らかに、降
る。一時帰島されるのと、医師が
同行しています。
丸川、何か、出て、も、大丈夫な、ように、い
う、その、流に、埋まっ
た、家を見られた方、これは、大変だ、と思わ
る。三宅島では、今でも、二酸化硫黄が、毎月二
三万トン、出ている、んのです。丸川
つまり、毒ガスですね。

三宅島から、出ている、硫黄が、降
り、今、硫黄の、ない、方向に
の、噴火の、特徴が、明らかに、降
る。一時帰島されるのと、医師が
同行しています。
丸川、何か、出て、も、大丈夫な、ように、い
う、その、流に、埋まっ
た、家を見られた方、これは、大変だ、と思わ
る。三宅島では、今でも、二酸化硫黄が、毎月二
三万トン、出ている、んのです。丸川
つまり、毒ガスですね。
丸川 珠代 □ テレビ朝日アナウンサー
まられるかわ たまよ／兵庫県出身。平成11年テレビ朝日入社。「スーパーチャンネル」「たけしのTVAタックル」「朝まで生テレビ」などを担当。
丸川最近、週刊誌などで東海地震が起きるのではないか？
富士山が噴火するのでは？
私たちのくさい心配をもってণ
東海地方のトフ高橋、備えは必要です。

丸川防災課、地震ですよね。私の防災
高橋、防災課、地表です。

丸川、防災課、地表です。

丸川、防災課、地表です。

丸川、防災課、地表です。

丸川、防災課、地表です。
丸川 富士山のハザードマップをつくる検討委員会が発足

高橋 阪神淡路大震災のときは、戦後初めで震災に直面した都市型大震災でしたか、いったい課題がありましたけれども、最近の政府の緊急対応については、非難がなされていませんか。例えば有珠山でいうと、ハザードマップは、なんですか、その周りにあるわけではありませんが、そういうものがきちんと作られていませんか。検討委員会を発足させ、七月十六日に初めての委員会を開いたところ、例えば火山が爆発したらこんな危険があるとかという地図を作成して地域住民に明らかにしてしまうことが大切です。例えば有珠山でいうと、ハザードマップは、何かその周りにあるわけではありませんが、そういうものがきちんと作られていませんか。検討委員会を発足させ、七月十六日に初めての委員会を開いたところ、例えば火山が爆発したらこんな危険があるとかという地図を作成して地域住民に明らかにしてしまうことが大切です。例えば有珠山でいうと、ハザードマップは、何かその周りにあるわけではありませんが、そういうものがきちんと作られていませんか。検討委員会を発足させ、七月十六日に初めての委員会を開いたところ、例えば火山が爆発したらこんな危険があるとかという地図を作成して地域住民に明らかにしてしまうことが大切です。
丸川さんが私なりに私の個人的な苦労を
何何でも助けていただけるわけではな
くて、丸川さんなり私なりの個々の痛感だ
か。何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのか。わかり
ない。だから、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私の
苦労を知らせないのだろうか。きちんと行
動が届かないから、協力が届かないから、
情報が届かないから、助訴の精神
が浸透してしまったのか。だから、
何でか、丸川さんが私なりに私

アジアの防災専門家との交流を積極的に入れます。

アジアは世界の中でも災害の被災者数が多い地域と伺っています。日本は国際的な視点から見た国であるから、災害の被害を最小限に食事や生活を再構築するための技術開発をアジアの地域に拡大することに取り組みましょう。

阿南の連絡調整の橋渡しをしたり、そういった行政としての役割があのすからあるのでは、それもいろいろな経験を通じていただけます。なんとか改善されてきているのではないかと思いませんか？

アラックが手を貸してあげるとということはありますか？

アジアの防災専門家との交流を積極的に入れます。

高橋
ある国際協力も大変重要なことだから、例えばアジア防災センターを神戸につくったり、日本ではどのような防災の勉強をしているのか、いっぱい日本が教えるチームが行くのでは違ったと報道されたことだと私は感じています。

国際交流を積極的に進めていこうと思います。

丸川
いつの地震でしたか、日本だけ派遣チームが行くのでは違ったと報道されたことだけでしたよね。

日本ではトリコにしても、日本が教えるの支援チームが違うからです。そうした事はあれば、日本が教えるシステムはどうなっているのですか。

丸川、それはひとえですね。

高橋
台湾に住むトリコにしても、日本が教えるの支援チームが違うからです。そうした事はあれば、日本が教えるシステムはどうなっているのですか。

丸川、それはひとえですね。

高橋
災害のときは、セントラルに損害が大きければ、どちらも被害に遭った方たちの生活をどうするかという助かった方たちの生活をどうするかということはとても大事なことです。それとも忘れてはならないのは、災害で亡くなられた方たちの思いを今後どう生かすかということです。

丸川
災害についての認識を新たにし、どうもありがとうございました。